

KOKORO

Medical corporation Yamashita Hospital [こころ]

since 1901

連携医療機関 医師インタビュー

山下病院の「炎症性腸疾患(IBD)外来」
先生からのメッセージ

お
な
か
の
病
院



おなかの病院



一宮市 おなか 病院 × | 🔍

 医療法人 山下病院
Medical corporation Yamashita Hospital

〒491-8531 愛知県一宮市中町1丁目3番5号 TEL:0586-45-4511



連載 特集医師

野村医院

院長 野村 直孝 先生

副院長 野村 侑史 先生

3 p

野村医院一押しポイント

医師インタビュー

4 p

5-6 p

山下病院 News

山下病院の専門外来

炎症性腸疾患(IBD)外来

消化器内科 山下 彩子

炎症性腸疾患とは

主な原因や症状

当院IBD外来の診断の流れと治療法

7 p

8 p

9-10 p



Medical corporation Yamashita Hospital

おなかの専門病院

<https://www.yamashita-hp.jp/>



内科・外科・消化器科 **野村 医院**



院長 **野村 直孝** 先生

副院長 **野村 侑史** 先生

野村医院一押しポイント

野村医院の特徴

2名体制で診療を行っています。
 一般診療はもちろんのこと、訪問診療も行っています。また、兩名救急科専門医ですので、急性疾患・外傷性疾患にも対応しています。
 かかりつけの患者さんについて、診療時間外でも電話でのご相談・お問い合わせを受け付けており、必要に応じて診療時間外でも対応できる体制を整えています。新規の患者さんについても、症状をお尋ねし、対応します。
 当院で対応できない処置や検査が必要な場合、近隣の病院や診療所と連携を図っています。患者さんの状況を伺いながら、最適な医療機関へ紹介します。また、診察については、予約制をとっていませんので、お困り事がありましたらいつでもお気軽にご来院ください。

対応検査

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）／超音波検査／心電図検査／血液検査
 骨密度検査 など



内視鏡検査機器



超音波検査機器



「どんな時も」患者さんとご家族の
 気持ちに寄り添った医療を提供する

今号の連携医療機関特集医師にご協力いただきましたのは、野村医院、院長の野村直孝先生と副院長の野村侑史先生です。
 野村医院は大正時代から代々継承されており、一宮の地で地域の皆様の健康増進に尽力されています。
 野村直孝院長・野村侑史副院長共に救急科専門医ですので、急性疾患・外傷性疾患から生活習慣病まで幅広く診療され、患者さんだけでなく、患者さんの家族にも寄り添った医療を提供されています。また、副院長は市内でも数少ない、「救急科指導医」の資格を有しておられます。
 山下病院との連携は強く、多くの患者さんをご紹介します。地域医療の推進にも貢献していただける先生方です。

（文）山下病院 地域連携広報室



「野村医院」の木製看板
 医院＝“醫”院と表記されており歴史を感じます。

Q 医師を志したきっかけを教えてください。

A (野村 直孝 先生)

父が行っていた地域に密着した医療を間近で見ている、父の志に共感し、私も地域に密着した医療を提供したいと思ったのがきっかけです。

(野村 侑史 先生)

小さい頃から「救急医」である父を見ていて、昼夜問わず患者さんを診ていた姿から、自分も地域で活躍する「救急医」になりたいと思ったのがきっかけです。

Q 患者さんと接する上で、大切にされていることは何でしょうか？

A (野村 侑史 先生)

一人ひとりご希望が違うので、会話を重視しています。検査の頻度・薬の処方の方など、押し付けの医療にならないよう、患者さんの気持ちに寄り添い、その上で日々自分も勉強し、必要な医療情報を正しく案内し、患者さんが相談しやすい環境を提供していくことです。

(野村 直孝 先生)

野村 侑史 先生と同様、患者さんの要望をお伺いし、的確なアドバイス・治療ができるようにする事です。

Q 地域のかかりつけ医として、心がけていることを教えてください。

A (野村 直孝 先生)

救急科専門医2名体制を活かして、時間外でも電話等で相談できる体制をとっており、必要に応じて可能な限り時間外での診療にも対応しております。訪問診療・介護相談などは、事前にご相談いただければ、診療時間外でも対応するなど、患者さんにご家族に最大限配慮し、対応する事を心がけています。

Q 症状で悩んでいる方へのメッセージをお願いします。

A (野村 直孝 先生)

身体のお悩み事で診察を受けたいが、何科に受診したら良いのか分からなかったり、内容によって相談しにくいこともあるかと思いますが、当院では、救急科専門医の知識を活かし、アドバイスや必要な医療機関への紹介をさせていただきますので、お気軽にご来院ください。

インタビュー／山下病院 地域連携広報室

内科・外科・消化器科 野村 医院

【診療科目】 内科 / 外科 / 消化器内科

【診療項目】 一般外来 / 市民健診 / 予防接種

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
17:00~19:00	○	○	—	○	○	—	—

【休診日】 水曜・土曜日午後・日曜祝日

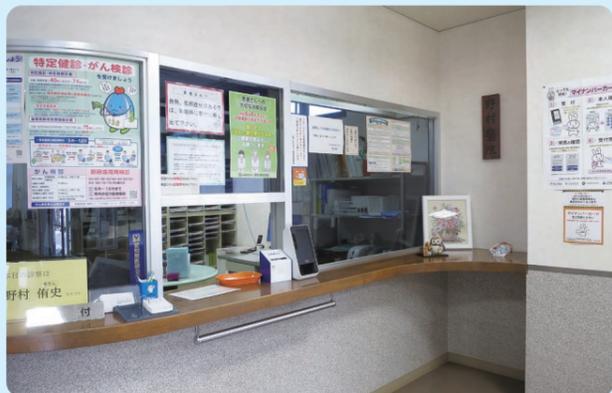
〒491-0852 一宮市大志1丁目9-28
TEL.0586-72-2464
FAX.0586-72-5891



この冊子を手にとってくれた方へのメッセージをお願いします。

一宮地区は全国に先駆けて、病診連携(診療所・クリニックと病院が緊密に連絡を取り合うこと)で、包括的で一貫性のある医療を患者さんに提供すること)を確立しています。

一宮地区すべての診療所・クリニックは、病診連携を深めており、的確なアドバイスや、必要な医療機関への紹介を行いますので、お困り事がありましたら、悩まず主治医もしくは近くの医療機関へご相談ください。



「炎症性腸疾患（IBD）外来」

炎症性腸疾患（IBD）とは

炎症性腸疾患（IBD）は、腸などの消化管の粘膜に炎症がおこる病気で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病に分けられます。
大腸の粘膜がただれたり、消化管が深くまで傷つき狭くなったりすることで、症状が現れます。
長期的には病状が悪い時期と落ち着いている時期を繰り返すため、長く付き合っていかなければならない病気です。

こんな症状は炎症性腸疾患（IBD）かも

- ✓ 腹痛
- ✓ 下痢
- ✓ 血便



山下病院 消化器内科
炎症性腸疾患（IBD）外来 担当医師 山下 彩子

主な原因

炎症性腸疾患（IBD）の原因は明らかになっていません。遺伝的要因に食事、生活習慣、腸内細菌バランスなどの環境要因が加わることで腸の免疫が過剰に働き、発症すると考えられています。



潰瘍性大腸炎の症状

潰瘍性大腸炎では大腸粘膜に潰瘍を伴う炎症がおこります。慢性的な下痢、血便、腹部不快感がみられ、重症化すると発熱、貧血などの全身症状が現れます。



クローン病の症状

クローン病では口から肛門までのあらゆる消化管に炎症がおこり、特に小腸・大腸を中心にむくみや潰瘍をきたします。腹痛、下痢、体重減少、発熱がよくみられる症状で、進行すると腸が狭くなったり膿がでけたりします。



当院の診断の流れ

診察で炎症性腸疾患（IBD）が疑われる場合には、血液検査、便検査、必要に応じてCT検査を実施し、その後、内視鏡検査で炎症性腸疾患（IBD）に特徴的な所見があれば確定診断となります。



炎症性腸疾患（IBD）外来

毎週月曜日 午後1時30分～午後4時（予約制）

担当医師：消化器内科統括部長 松崎 一平

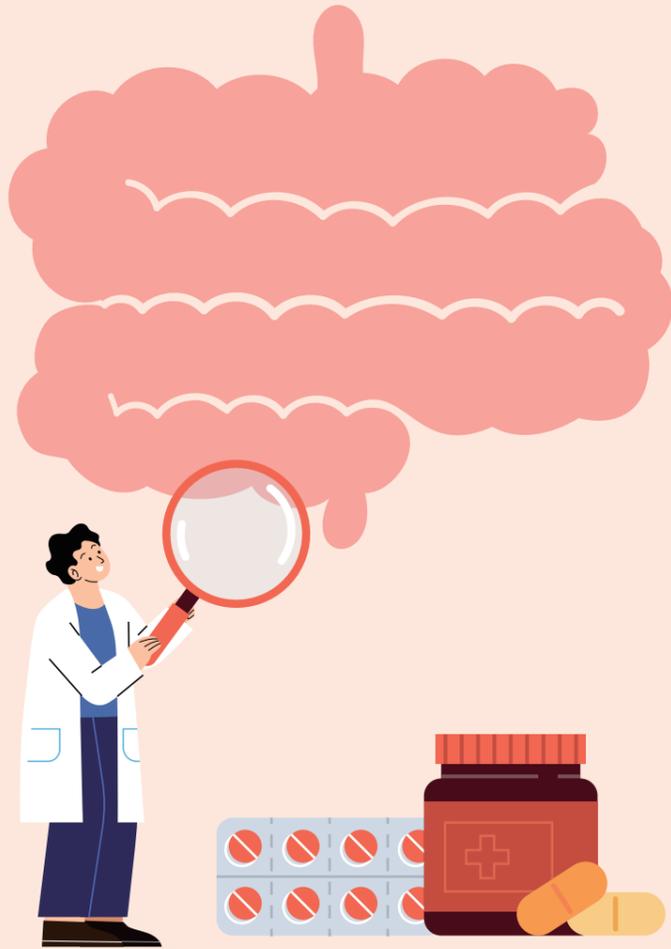
毎週水曜日 午前9時～午前12時（予約制）

担当医師：消化器内科医長 山下 彩子

初診については予約制ではないため、まずは受付時間内にお越しください。
診察後に炎症性腸疾患（IBD）外来へご案内いたします。

当院の炎症性腸疾患（IBD）外来の 特徴・治療方法

炎症性腸疾患（IBD）の治療では、まず炎症を速やかに抑え、その落ち着いた状態を長期に維持していくことが必要です。炎症や免疫を抑える薬を使い、重症度や病期に応じて、薬の種類や投与量を調整しながら病気をコントロールしていきます。



山下医師よりメッセージ

炎症性腸疾患（IBD）は年々罹患者数が増加しています。慢性疾患のため長期に管理が必要となりますが、近年では新薬が次々と開発されており、難治の方の治療選択肢も広がってきています。症状が良くなるだけでなく、腸粘膜の炎症も落ち着いた状態を維持していくことが、長期的にみて大切な治療目標になります。適切に病状を評価し、より良い治療に結び付けていければと思います。



山下病院 消化器内科
炎症性腸疾患（IBD）外来

担当医師 山下 彩子